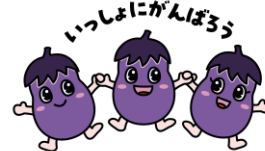


滋賀県湖南市 ～人・事業・地域がつながる一体的実施事業～



湖南市健康づくりキャラクター 湖なすちゃん

市の概況（令和7年4月1時点）

人口	53,879人
高齢化率	26.5%
後期被保険者数	7,534人
日常生活圏域数	4圏域

実施体制

湖南市

健康政策課 企画調整担当保健師
 保健事業実施、KDBデータにより地域の課題の分析
 事業企画・実施

高齢福祉課 地域担当保健師
 介護予防事業実施、事業企画・実施

保険年金課
 後期高齢者医療特別会計・一般会計予算主管課

情報提供

助言協力

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施推進検討委員会

市内在勤の医師・歯科医師・保健師・管理栄養士・薬剤師・歯科衛生士・理学療法士・甲賀健康福祉事務所

その他関係機関
 地域包括支援センター
 シルバー人材センター
 老人クラブ連合会
 介護事業所
 市内医療機関
 市内調剤薬局etc.

年2回開催。取組の検討や進捗報告を行う

取組概要

気軽に相談できる環境づくり（フレイルサポーター支援事業）

- ・フレイルサポーターと協働して、フレイル啓発活動等の後方支援を行う。
- ・通いの場や市民が立ち寄るショッピングセンター、地域のサロン等でフレイルサポーターと協働してフレイルチェックやフレイル啓発を行う。

口腔に関わる相談・指導（オーラルフレイル予防）

- ・対象者に集団教室とお口のお手入れ100日チャレンジ事業の参加推奨を行い、6か月に2回の歯科指導を実施する。
- ・返信がない、不参加の人に対しては電話・訪問により保健師、歯科衛生士等による支援を実施する。口腔に加えてその他のフレイル該当している人を優先して介入する。
- ・口腔機能の指導（口腔体操等）を実施し、本人の課題に応じた個別目標を立案する。
- ・6か月後に集団教室または電話・訪問にて目標達成状況、口腔機能を評価する。必要に応じて個別訪問、医療及び歯科の受診勧奨や地域包括支援センターを案内する。

健康状態不明者把握事業

対象者に保健師、地域包括支援センター職員が訪問等のアウトリーチによる支援で健康状態の把握を行うとともに、健診の受診勧奨や地域資源の情報提供をする。対象者のアセスメントの結果、ボランティアや地域の支え手となる場合には活動先を紹介し、地域へつないでいく。

取組の工夫点

令和4年度以降、フレイルサポーターは何をするのか、何をしたいのかをステップアップ講座や交流会を通じてサポーターと明確化。フレイルチェックの実施場所を通いの場からスーパーや図書館にも拡大。サポーターによる住民への積極的な声かけが行われている。またサポーターが自主的にフレイル予防のヨガ教室の立ち上げに向けて動き出している。

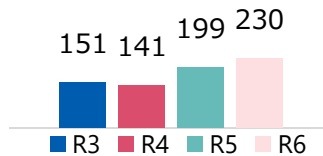
通いの場参加者への集団指導を実施していたが、コロナ禍以降縮小。個人で自宅でお口のお手入れ100日チャレンジ事業*を実施。後期高齢者の質問票等の分析から住民の口腔リスクの高さや、歯科への関心が薄いことが分かり、令和6年度から口腔に関わる相談・指導を開始。元々あった事業が発展していった。今後オーラルフレイルから他事業（地域資源やサービス活動Cなど）への接続も検討する。

※既定の期間にオーラルフレイル予防の口腔体操、その他任意のチャレンジに100日間取り組んでもらう

令和6年度から対象者のうち79歳以下を健康政策課、80歳以上を地域包括支援センター職員が訪問。80歳以上は体調が急に悪化するリスクがあるため、迅速に介護サービスへつなげることができる地域包括支援センターにお願いをしている。

フレイルサポーター養成講座受講修了者数	27人 (R2)	29人 (R5)
地域活動に参加したサポーター数	5人 (R3)	12人 (R6)

100日チャレンジ参加者数（人）



介護サービス等接続率

1.5% (R3) **4.5%** (R6)

ここがポイント

Point 01 一体的実施推進検討委員会を活用した事業展開

- ・専門職の意見から、100日チャレンジ事業の評価指標を本人が変化を感じられる項目（米飯一口を何回咀嚼して飲み込めるか等）に設定。
- ・課題感や事業の改善案などを聴取し、進捗報告も行うことで、委員の所属先から事業への職員派遣など前向きな事業協力が得られている。

Point 02 住民の参加意欲が湧くようなポピュレーションアプローチを実施

- ・フレイルチェックの際、同世代のフレイルサポーターが声をかける方が反応が良い。自宅のできる100日チャレンジ事業の達成者には防災グッズや口腔ケアに関する賞品を贈呈。

滋賀県湖南市

サポーターによる
フレイル健康チェック
の様子



事業結果と評価概要（令和6年度結果）※一部抜粋

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	口腔	45人	15人	歯科医療機関の受診状況 分母： ①後期歯科健診結果が「要受診」「要精査」であったが、おおむね6か月後まで歯科受診がみられない者 ②後期高齢者の質問票を参考に市独自で作成した質問票の項目のうち「咀嚼機能」「嚥下機能」のいずれかに該当かつ過去1年間で歯科受診がない者 分子：上記のうち、介入後に歯科医療機関に受診した者の数	①対象者16人のうち6人が受診。（37.5%） ②対象者39人のうち9人が受診。（23.1%） 対象者②は留意すべき疾患など、個別性に配慮した支援が必要であったため、継続的に個別支援を実施していく。
	健康状態不明者	87人	62人	①対象者のうち健康状態を把握できた者 ②対象者のうち介入後に健診を受診した者	①62人（71.3%） ②5人（5.7%） 健診受診率は5.7%にとどまっているが医療受診や介護サービス、地域包括支援センター継続支援につながった人もいる。多くは支援を要しないが潜在化している対象者層の把握としては重要であり継続して実施する。把握後、元気高齢者の社会参加の場へのつなぎや場の創出、成功事例の集積などより良い支援に向けて検討を行う。
ポピュレーションアプローチ	通いの場等における高齢者の全身状態の把握（状態把握）	-	230人	【お口のお手入れ100日チャレンジ事業】 ①健口体操と任意のチャレンジの2項目を100日間達成できた人数 ②新規参加者数	①181人（達成率78.6%） ②76人（新規参加者率33.0%） 参加者数は増加傾向である。今後も参加者数の増加を目指すとともに、対象者へのきめ細やかなフィードバックやハイリスク事業及び介護予防事業との接続などより効果的な実施方法の検討を行う。
	気軽に相談できる環境づくり	-	2か所 164人 (累計)	フレイルサポーターによる啓発事業等の参加者数	フレイルサポーターとの協働により握力測定などのフレイルチェックを実施した。後期高齢者の質問票を参考に市独自で作成した質問票の回答には抵抗感がある人もいるため無料で公的事業であるとの掲示や気軽に参加できる工夫を行う。今後は他の地域にも展開できるように連携先の調整を行う。

課題・今後の展望

- フレイルサポーターのなり手を増やしていくこと。地域にサポーターの活動を浸透させ、フレイル予防が住民主体の取組となるように、サポーターが関与したことで良くなった事例を発信していく。また、地域で活動していくための仲間づくりや活動場所の開拓を支援していく必要がある。
- 市の事業に関わることで生活が良くなったか、数値やデータには出てこない住民の変化を評価したい。地域住民に向けて情報発信し、更に一体的実施事業に関わる人、関係機関をつなぎ、フレイル予防に取り組む住民を増やしていく。
- 多くの取組をしているが質を高めていきたい。“要介護状態になっても幸せに暮らせるように”という考えをどのように取組に反映させていくかが課題である。